

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 1年 10月 15日

公表: 令和 年 月 日

事業所名 ほしぞら

	チェック項目	はい	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
						改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	1	児童発達支援の部屋は、座る活動をするところと遊ぶスペースが一緒になっているため見やすいが、課題への集中力は欠けてしまう。今後検討が必要。	
	2 職員の配置数は適切である	9	1	0	なるべく多めに配置し、緊急時など臨機応変に対応できる様にしている。送迎時間がバラバラで送迎に何人も出てしまう時にはバタバタしてしまう事がある。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	1	0	色々環境作りを工夫している。状況次第で今後も改善していく。ドアを開閉しないなどのスタッフが会話ができないので、開閉できる小窓があると良い。小窓があれば職員がいつでも内側と外側の様子を確認できる。今後、検討していく。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	1	毎日清掃・消毒をしており、清潔にはされているが、虫が入ってくる。定期的な駆除をしていく。空間は清潔に保たれているが、毎日使うおもちゃや本の消毒は毎日ではないので定期的に行っていく。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	1	1	目標は設定できている。振り返りの時期を決めると継続できる。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	2	保護者向け評価結果を、職員で共有し改善に繋げる努力をしている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	4	自己評価結果をホームページにて公開している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	6	第三者による外部評価結果を、職員で共有し改善に繋げる努力をしている。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	0	定期的に行っているが、今後、すぐにカリキュラムに取り入れられるような実践的な研修も受けて行くようにする。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	1	アセスメントをもとに利用者と保護者のニーズや課題を検討し、計画書を作成している。定期的にモニタリングを行ったり、支援者会議などを行い必要に応じて計画変更を行っている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	5		
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	4	支援者会議で、保護者・保育園・相談員・児童発達支援事業所など関係機関で利用者情報について話し合い 計画について周知している。その後、事業所での具体的な支援方法を考えている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	1	児童発達支援計画書に沿った支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1	0	職員で話し合い決めていくが、感覚統合等の研修を受けたスタッフ活動予定表にどんどん取り入れて行けば更に充実した活動内容になると思う。AM児発の活動を主担当者が決める事になっているが、今のような活動で良いのか不安に感じる。実践で活かせるような研修を受けていただき、他職員と相談しながら決めていきたいと思う。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	1	毎月職員同士で話し合い、新しい活動を取り入れたりしている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0	0	集団活動・個別活動に状況に応じて組み合わせ出来ている。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	0	その日の出勤職員が揃い次第、申し送りや送迎・活動について確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	3	0	支援開始時には毎日申し送りなどを行っているが、夕礼会のように毎日は設けていないが、情報共有は行っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	1	問題等は全体ミーティングや日々の申し送りで共有している。その場にはいない職員などにも分かるよう申し送りノートに記載している。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	定期的にモニタリングは必ず行い、計画変更など必要に応じて行っている。その他、必要に応じて話し合いの場を設けている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	4	基本的に児童発達支援管理責任者が出席している。その他、利用者の支援に多く携わっているスタッフが出席している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	5	保育園や他事業所・相談支援事業所とは連携がとれているが、保健センターや子育て支援等の関係者とは、連携がとれていない。今後、連携がとれるよう支援の輪を広げていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象者なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケアが必要な利用者は、現段階では受け入れ態勢はしていないが協力医療機関はある。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	4	支援者会議などで情報共有している。その他、問題などがあれば保育園などと連携して情報共有をしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	5	利用者によって、「あゆみ」をみせていただき保育園や幼稚園での様子を情報共有させてもらっている。「あゆみ」がある子は統一して見せてもらうようにするとより良い支援ができると思う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	4	今は定期的には取り入れていない。今後取り入れて行きたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	3	1	毎年スポーツ交流会(他事業所と協力して場を設けている)や地域の祭りに参加し交流している。活動でおでかけなどをして地域の子どもたちと関われる機会を作っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1	4	子ども部会やワーキングチームには毎回参加している。その他、協議会には代表者が参加するようにしている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	0	連絡帳で伝えたり、送迎スタッフが直接伝えたりしている。年に2回面談時を行い事業所での様子や今後の支援や共有している。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1	5	保護者会などは行っているが、ペアレントトレーニングまでは行っていない。今後、保護者向けの勉強会などを開催していきたいと思う。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	5	契約時に分かりやすいように、説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	5	児童発達支援計画書を保護者にも確認していただき、同意をいただいている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	4	保護者から相談があった場合は、適宜助言を行っている。その他、面談や保護者会などでお話しする機会がある。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	4	イベント時に情報交換や保護者会を行っているが子どもがいるとなかなか落ち着いて話ができない。保護者と職員だけの保護者会を年に1~2回行っているが必要に応じて今後増やして行きたいと思う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	1	契約時に相談・苦情窓口の説明をしている。保護者から相談・苦情があった場合は担当者が迅速に対応し、スタッフ間で共有している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	2	毎月活動予定表や通信などで活動の様子を分かりやすく伝えて、いる。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	0	個人情報に分かる書類は、鍵付き書庫に保管している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	1	送迎時や連絡帳で情報伝達している。必要に応じて電話でお伝えしたり個別で話し合いの場を設けたりしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2	3	事業所が地域住民を招待することはあまりない。ただ、地域のお祭りやイベントなどにこちらから参加することは定期的にある。今後、招待できるイベントを考えていきたいと思う。障害児通所支援事業というのがあまり知られていないので、イベント等で周知してもらえようしていきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	5	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルは作成してあるが、新しい職員など全員に周知しているかといえそうではない。今後、全職員に周知していく。活動の中で利用者とは訓練しているが、職員間で実践を想定した訓練は行っていない。今後行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	2	年に1回は消防署に向き防災訓練を行っている。その他活動の中で、避難経路確認などを定期的に取り入れている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	2	服薬、てんかんについては保護者から詳細を聞き把握しているが、予防接種については把握していない。今後、確認していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	6	保護者からの情報をもとに、アレルギー対象児一覧表を作成し共有している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	1	ミーティング時等で共有できている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	5	虐待防止研修を実施している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	6	身体拘束はしない事を前提で支援を行っている。現在は対象児はいないが、今後やむを得ない場合は保護者に十分説明し、了解を得た上で放課後等デイサービス計画に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。